

表コミ通信

2019年9月

増刊号



授業紹介 <情報科> 3年生 課題研究発表会

～13期生 ゴモラプロジェクト～

2019年4月。進級したばかりの13期生対象に「情報科カリキュラム説明会」を実施しました。一人ひとりは温かな魅力にあふれ、イベントでは行動力を發揮する13期生ですが、「勉強」になると逃げてしまい、入学時から授業態度が問題となっていました。「勉強しなければならない」「したくない」。2つの矛盾からくる不快感・認知的不協和を、猛烈な「したくない」アピールでやり過ごしてきた13期生が乗り越えるべき課題は、今までの自分に向かい、学校と向き合うこと。「過去と

他人は変えられないが、未来と自分は変えられる。」表コミが実践しているアドラー心理学の極意をアレンジし、「13期生ゴモラプロジェクト」としてスタート。モデリング効果を狙い、怪獣映画で人気のキャラクターを採用。代替物に置き換えて自己と対峙し、あるべき行動への理解を深めました。13期生のがんばりと、担任、教科間連携により、8月、課題研究発表会を成功させることができました。

これは、13期生と担任、教科担当教員たちとの半年間の熱い記録です。

2019
4月

■ 情報科教員からの 投げかけ

情報科授業は、2つの柱が。一つは、山本千晶先生担当のパソコン操作。そして、もう一つは津田が担当する、調べて、探求する「発表」です。

2年生を振り返ります。4月、パワーポイント操作に慣れるために「クイズ」を作りました。次に、データ型小論文の練習として「高校生のための新しいお茶」を提案。「水調べ発表」を経て、夏休みには、3年生「課題研究発表会」を見学。先輩の熱のこもった発表を見て、高校での1年の差がとても大きいことに驚いたと思います。後期は、ディベートと反論容認の練習「うどんそば戦争」の後に「課題学習発表会」の準備にとりかかりました。

「課題学習発表会」は、意見文がベースです。「環境」をテーマに、パワーポイントを使って、3分間、それぞれの切り口で思いを語ってもらいました。皆さん、達成感を感じたと思います。

■ 2年生は 準備不足 ⇒ 理由は 授業態度

ここで、2年生「課題学習発表会」をもう一度振り返ってみましょう。皆さん、どうでしたか？精一杯がんばりましたか？達成感を感じた一方で、残念ながら、準備不足も目立ちましたね。

- 意見文が、わかっていない
- 自分の意見が、まとまっていない
- パワーポイントが、まとまっていない
- 練習が、できていない
- 3分間の時間が、守れない
- オフィシャルな服装という約束が守られていない
- ポケットに手を突っ込んだまま、発表
- 表コミで発表練習をする意味がわかつていない

2年生の授業を振り返ると、準備不足の理由が見えてきました。ポイントは、授業態度です。

- 遅刻・欠席が多い
- 授業中、何度もトイレに行く
- 関係ないインターネットサイトを見る
- 机の上に突っ伏す
- 「嫌や」「めんどくさい」が口ぐせになっている
- ここで、他の教科についても、考えてみてください。テスト前に対策プリントを覚えて、テストさえできれば良いでしょ、って思っていませんか？本当の勉強は、暗記や作業の先の「探求」にあります。自分と向き合い、社会と向き合い、考え続けることです。

授業の雰囲気、課題学習発表会を冷静に振り返って、新3年生全体で、到達して欲しいレベルには残念ながら達しませんでした。全員、振り返ってください。Aさんはできていなかった。だからAさんが悪い、という個人攻撃ではありません。発表を機に、クラス全体の雰囲気を、一緒に学びあう力強いものにしようと努力しましたか？このまま、3年生のカリキュラムを進めることはできません。無理にやっても、皆さんも、私も、お互いにしんどいだけです。

■ 3年生 2つのコースから選択を

そこで、新3年生の皆さんには、2つのコースをご提案します。選べるのはどちらか1つ。それも、新3年生全員が同じコースを1つだけ、選びます。

Aコース。イメージキャラクターはEXゴモラレイオニックバースト。ひっそりと孤島で暮らしていた恐竜の生き残り。人間の都合で表舞台に連れ出された不幸な境遇の怪獣ですが、地道な努力と活躍により、今では高い人気を誇っています。努力が報われた怪獣です。身につくスキルは

大舞台でのプレゼンテーションスキル。全員が大舞台で経験できるのは、表コミだけです。他に、作成した文章のWEB公開と、プロカメラマン葛原よしひろ先生による写真指導も経験できます。

受講条件は3つ。まず、授業に出ること。理由のない遅刻・欠席、トイレは厳禁です。2つ目がガマンすること。「めんどくさい」「嫌や」を言わない。授業に関係ないインターネットは見ない。そして3つ目が、考えること。考えて、考えて、わからなくてもまだ、考えてください。考えに考えたその先にしか、あなたの欲しい答えはありません。

Bコースイメージキャラクターは、ジャミラ。ひたすら用意した課題をこなしていただきます。

皆さんは、小学校や中学校でしんどい経験をして、表コミにやってきました。今でもしんどいこと、できないことがあるでしょう。でも、だからといって、授業を欠席したり、遅刻したり、何度もトイレに行ったり、関係ないインターネットを見たり、「めんどくさい」を言い続けて良いわけではありません。

Aコースを選んだら、しんどい思いはさせますが、必ず、やって良かった！と自信をもって卒業できるようになります。先輩も、大学や専門学校の発表授業で高い評価を受け、「表コミでやって良かった」と言ってくれています。さあ、どんな1年にするのか、皆さんで話し合ってください。

2019年4月5日情報科カリキュラム説明会原稿より抜粋
担当：情報科講師 津田郁子



■ 13期生全員での話し合いは 1時間半にも

3年生は課題研究発表というプレゼン能力が求められる授業があります。熟考して自分の意見をまとめるという、13期生にとって一番苦手分野のため、担任教員より細やかな説明がありました。あえてこの「茨の道」を選ぶのか否かは、すべて生徒たちの意思に任されました。クラス全員が納得した形で結論を出すという大変

難しい課題でした。

全員がきちんと意見を述べ、話し合いました。がんばりたい気持ち。できるかどうかの不安。違う意見を持つクラスメイトへの歩み寄り....。

そして、彼らが出した結論は「茨の道」でした。この結論を出すまでに費やした協議時間は、なんと、1時間半。実り多い1時間半でした。

(表コミfacebook 2019年4月8日より)

2019
6月

表コミ facebook 生徒広報 3年生広島リポ フォトログプロジェクト プロカメラマン撮影セミナー①

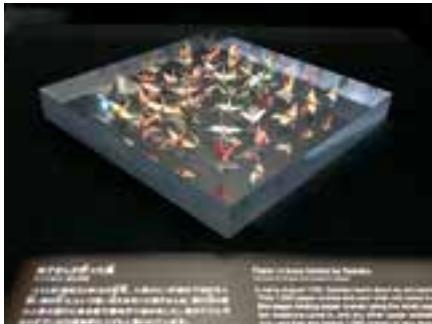
撮影:HNさん

4月の「カリキュラム説明会」で、クラス全員が8月「課題研究発表会」に臨むことが決定。教室は緊張感にあふれています。しかし、ヤル気だけで思考力が急に向上するわけではなく、思うように積み上がらないことが予想されました。例年とは違う方法で、真剣に向き合い、表現し、評価される体験を通して、13期生にふさわしい思考力と表現力を身につけて欲しい....。6月広島修学旅行を利用し、表コミfacebook上で、生徒自らの手で学びを伝える「3年生広島リポ」を実施することに。

後期に2回開催するプロカメラマン葛原よしひろ先生撮影セミナーを5月にも追加開催。広報記事作成の練習として、生徒役・記者役に分かれて、担任の先生による広島特別講義を受け、写真を撮り、記事を作りました。
「本気で伝えるためには、まずは相手に寄り添い、良く知つて、表現しようとする気持ちが大切!」葛原先生のご指導の下、相手の良さを最大限伝えるポートレート撮影実習も行い、本気で伝える大切さを学びました。



撮影:ROさん 自前の一眼レフカメラを持参して撮影



撮影:SYさん 美しい写真で平和への祈りを表現

■ 表コミ facebook 3年生広島リポ SEさん

☆3年生広島リポ 2019.7.24公開

広島修学旅行での学びを、生徒自らの手でお伝えしてきた「3年生広島リポ」。最終回のリポーターは、SEさんです。あれから1か月。SEさんには、広島で心に響き、心が震え、こみ上げてきた様々な感情を、丁寧に整理する時間が必要でした。

しっかりと自分と向き合い、書き上げた広島リポ。彼が一番、心に「グッ」と来た峠三吉詩碑の写真と共に、どうぞお読みください。

以下の文章と写真は、生徒によるものです。

僕は、小学校と中学校の時にも、広島に行きました。その時は、ただただ目の前の展示が怖かった。

高校生になって、表コミに入学して、いろんな経験をして成長した僕は、友達からも「他人の苦しみが分かるようになったね」とか「視野が広くなったね」と言ってもらえるようになって、今は、毎日がとても楽しいです。

3年生のクラスのみんなと広島に行って、もう一度広島平和記念資料館を見て、体験者の話を聞きました。

その後、旅館の窓から見える原爆ドームがとても

迫ってきて、気持ちがザワザワして、さっき聞いた話が気になって、夢中でケータイで調べました。

この地球上には、1万発以上の爆弾が存在していてボタン1つで直ぐに爆破できる、そんな状態にある。

小学校・中学校の時は、ただ目の前の展示が怖かったけれど、高校生になって、他の人や、他の国や、地球全体、そして未来を考えられるようになった僕は、その状況が本当に怖いと心から思った。小学校の時に、お母さんが連れて行ってくれた、長崎の原水爆禁止世界大会は「何かいい事をしてるんだろうなあ」とは思ったけれども、今ひとつよく分からなかった。

でも、今ならわかる。

地球全体や未来のために、やはり原爆はあってはならないものだと思う。高校生になった僕は、本当に痛いほど感じました。だから、僕はこれからも平和を訴えて行くために、原水爆禁止世界大会のような核反対運動に参加したいと思います。

最後に今回の平和学習に連れていってくれた先生や、小学校の時に広島・長崎に連れていってくれたお母さんに、すごく感謝しています。

本当にありがとうございました。



表コミ13期生と、広島女学院の皆さん

■ 広島女学院の皆さんによる平和公園碑めぐり

広島女学院生に、碑めぐりをしていただきました。同年代だからこそその視点と学び。質問をしたり、話が尽きませんでした。表コミ生からの質問と広島女学院生のこたえを紹介します。

● いつから平和学習を始めたんですか？

● 小学校から本格的に始まりました。広島市民にとって、平和学習は当たり前のことで、毎年8月6日午前8時15分には知らせる音とともに黙祷を捧げます。

● 調べていて、一番心にグッときた碑は？

● 慰霊碑の横の「不明者名簿」です。まだこんなに不明者がいらっしゃる、ということ。

● なぜ、たくさんの碑を一か所に集めないですか？

● 一か所に集めると、見えない碑もできてしまう。碑一つ一つに意味がある。公園全体が慰霊の場だからです。

● 私は日本だけでなく、世界の平和を考えないと、と思っています。広島女学院の皆さんはどう思われますか？

● 高校1年生の時に、カンボジアについて学び、実際に

行ってきました。広島で活動していると、広島に集中してしまいがちですが、世界に広く目を向けていきたいです。



■ 教科間連携 国語科

3年生国語演習の時間に、「祖父とあゆむヒロシマ今は言える、自由に。」(有限会社風媒社 愛葉由依2019)を読み、当事者でない若者が広島を学ぶ意味を考えました。



■ 広島リポを書いて

SEさん

作文が苦手で本当に苦しかったけれども、がんばる約束をしたので、1か月遅れですが広島リポを提出しました。その後、嵐のような凄い反響で、ピックリ。友達や先生や、家族からも褒めてもらひ恥ずかしかった。おばあちゃんが「すごい文章!」と言ってくれたのがうれしかった。あと半年、ずっと逃げていた学校から、逃げずにがんばります。



■ 平和への祈り SYさん

広島リポで私が考えたのは「悲惨な遺品の写真だけが、悲惨さを伝えられるのか」ということ。平和への祈りが込められた折り鶴を美しく撮ることで、折った方の苦しさや悔しさや、平和への切なる願いを表現しようと思いました。

2019
8月

公開授業 課題研究発表会

発表:T.Oさん

6月広島修学旅行「3年生広島リポ」が新たに加わったことで、日程が厳しい上に、火が付くのが遅めの13期生。約束通り、遅刻欠席をはじめ授業態度は格段に向上了ましたが、熟考に慣れていない生徒も多く「わからない～」と苦しむ日が続きました。そんな彼らに「表コミの発表は意見文。考えて、考えて、まだ考えなさい」と、考え続けることを促します。ここが正念場。表コミで基礎学力の定着をはかり存在があるがまま受け入れてもらえる心地よさや、クラスでの真剣な話し合いを

経験した生徒にとって、熟考はネガティブな反芻思考にはならず、自己と対峙し社会に目を向けるキッカケになることを、たくさんの先輩が証明してくれました。インターネットのコピーではなく、苦しんで自分で生み出した答えは、熱く心に響きます。食べられない食品サンプルのような美文よりも、相手を思いやって作ったおにぎりのような発表を目指し、全員がギリギリまで努力し、当日、一人も欠けることなく壇上に立ち、誠実で熱い発表をしてくれました。



トップバッター YKさんの発表



銀行窓口で口座開設の説明を受けるYKさん（発表スライドから）

【最優秀賞】金の信頼と価値 YKさん

■なぜ義務教育でお金の話がされないのか？

義務教育の発端は明治時代、「富国強兵」というスローガンの下、国のために働く人間を確保することでした。庶民にお金の知識を持たせる必要などなかったのです。その流れから、今でも義務教育でお金の話がされない傾向にあるようです。

■お金の価値を作っている信頼

私は、信頼は次の3つからできていると考えました。

- 1 法律による保証
- 2 現実に貨幣が実在していること
- 3 貨幣流通を管理している銀行への信頼

そこで、実際に銀行に行って口座を作ってみました。行員さんに説明を受け、通帳を受け取りました。（写真左下）「実際に相手が見える」ことからうまれる安心感を体感しました。

■お金の未来

仮想通貨のように、情報化されデジタル化されていきます。しかし、歴史が浅く、実在しておらず、法律による保証も正直不足があることから、信頼度はこれから課題です。「わからない」「紙幣でいい」で

とどまるのではなく、情報化にリスクがあることを知ったうえで、興味を持ち、取り組むべきです。

■世界は変化する

私達とお金の縁は切れず、難しいものであるにもかかわらず、とてもなく速いスピードで変化していきます。その速さに、私たちは対応できていません。政府や金融などの大きなことから、ひと一人単位の小さなことまで。

私は当初、大切なお金を教えるようとしていた義務教育批判をしようとしていました。しかし、そうではない。一つの枠組みだけでは、何もできない。どんなことも、繋がっているということに気付きました。

世界が変化すること。これは成長です。しかし成長も一つのことだけで出来るわけではない。いろいろなことがつながって進んでいる。

私は、このプレゼンテーションを大学AO入試に使います。つながりというのはとても難しいものです。だから大学でも繋がりについて学んでいきたいです。（発表原稿要約）



■13期生 課題研究発表会 発表タイトル

- 金の信頼と価値
- コミュニケーションを通じて
- 高齢者ドライバーによる事故
- 世界的デザイナー 山本耀司
- 若者の選挙への向かい合い方について
- 言葉
- 大切な命について
- 緊張について
- 動画編集の難しさ
- 運動の必要性
- コートジボワールの内戦を止めた男
- ユーチューブの魅力
- BTSとメディア
- クジラ類の進化
- 犬の虐待
- 放射線とその利用について
- フレディは誰を殺したのか？
- 親の虐待が子供に与える影響としつけについて
- 夢とドリームボード
- 障がい者手帳について
- VR “仮想現実”



AUさんの、熱い発表のようす

■課題研究発表会講評 国語科 藤田三奈子先生

2年生「課題学習発表会」、3年生「課題研究発表会」では、毎年、国語科 藤田先生が、一人ひとりに丁寧な講評をくださっています。表コミ生にとって、あたたかく、しかも的確な講評は何よりのご褒美です！

■13期生全体へのメッセージ

正解のないこと、何もわからない未来を考えるのは大変だし、しんどかったと思いますが、長い時間かけて、大切なテーマにしてください。



■友達の存在を再認識 YKさん

準備中は考えがまとまらず、苦しかった。やっとできた原稿は、資料のコピペではなく、自分の思いを紡いだ自信作。しかし、当日、友達の本気の発表を見てもっと深められたと反省が次々に浮かびました。準備中も発表後も、より高みを目指して語り合える、クラスメイトはそんな大切な存在になりました。



■経験が成長の糧に NYさん

やると決めたけれども、どこか不安でした。考えながらパソコンに入力するのが苦手で、スマホで友達とのディスカッションを録音して、後で文字起こしをしたり、工夫しました。たくさん練習し、達成感と満足感を味わいました。経験が成長の糧になることを、身をもって知った半年でした。

■熱意の重要性に気づいた TIさん

自分ではそれなりに準備をしているつもりでしたが、友達の発表を見て、びっくり。自分の意見を聞いてもらおうという熱意、これが私に足りないと気づきました。卒業して、進学先・就職先でも、この熱意は絶対に必要。心を込めて、熱く取り組むこと、私は今回の発表会で大切なことを学びました。

2019
11~2月

表コミ facebook 生徒広報 13期卒業公演アピール フォトローグプロジェクト プロカメラマン撮影セミナー②③

5月、13期生撮影セミナーのようす

卒業公演は、プロ俳優の植村好宏先生指導によるオリジナル演劇で、毎年、クオリティの高さで注目されています。情報科では教科間連携として、2人一組で卒業公演の役になり切ってお互いにインタビューと写真撮影し、表コミfacebook上で紹介する生徒広報「卒業公演アピール・フォトローグプロジェクト」に取り組みます。「フォトローグ」は「写真」と「対話」を組み合わせた造語。自分の思いでなく役の気持ちや立場を想像しながらやりとりし、深めた思いを写真で表現します。

くずはら
昨年度から、プロカメラマン葛原よしひろ先生が撮影指導してくださっています。今年度後期も、11月ファミリーウィーク時と、2月に撮影セミナーを実施。卒業公演会場で作品展示も行います。第三者の視点を想像し、言葉で思いを整理し、練り上げた文章とプロに指導を受けた写真をSNS上で公開し、広く評価される経験を経て、卒業公演の成功を目指します。

どうぞ、13期生のがんばりにご期待ください!

■ 特別講師 プロカメラマン 葛原よしひろ先生
表コミの皆さんには、しなやかな感性を持っていま
すね。写真表現は自分のイメージを実現する手段。
卒業後も、表現方法の一つとして役立ちますよ。

<葛原よしひろ先生プロフィール>ジャンルに捉われず何でも撮影する



マルチプレイヤースタイルの写真家。
カメラメーカー等の写真セミナー講
師としても全国的に活動している。
JPS(日本写真家協会)正会員・
Sony Imaging PRO SUPPORT会員・
Sony αアカデミー講師・SIGMA
PROFESSIONAL SERVICE会員・
EIZO ColorEdge Ambassador・滋賀
県高島市公認フォトアドバイザー

■ 葛原先生 撮影セミナー

11月と2月の撮影セミナーでは、ソニーミラーレス一眼レフカメラを使用して、ポートレート撮影に挑戦。2人一組で卒業公演の役の設定を細かく確認し、役のどんな場面をどう表現したいのかを、言葉で



5月。葛原先生の熱いアドバイスを真剣に聞く13期生



5月撮影セミナーでの作品
撮影: ROさん

考えます。浮かんだイメージを撮るには？ 葛原先生の的確であたたかなアドバイスをいただきながら、シャッターを押していきます。

説明が要らない素晴らしい作品を生み出す感動と評価される喜びを味わって欲しいと願っています。



12期生作品。撮影場所は、なんと男子トイレ！



12期生の取り組みが、大阪
日日新聞に掲載されました

■ 代替物を活用することで、素直に受け入れ、理解を深めることができます

特別支援教育コーディネーター 高達光子



誰だって、正面切って自分自身のダメなところを挙げられ、さあ直せと言われても、素直に向き合うことができませんよね。特に、子どもの場合、せっかくのアドバイスが逆効果になってしまふことも。

そんなときには、代替物を用いて客観的に見せると、理解を深めることができます。13期生にはモーリング効果を狙い、ゴモラとジャミラという怪獣キャラクターを用いました。2匹は似たような不幸な境遇にありましたが、行動の違いで、その後の評価が大きく違ってしまいました。行動の結果を感覚的に理解させ、どちらの行動を選択するのかを生徒

自らに選ばせたところが、今回のポイントです。

教科担当は、生徒たちの「勉強しなければならないことは分かっている（けれどもしたくない）」この矛盾からくる不快感（認知的不協和）を解消（軽減）するところから取り組み始めたのです。これまでの辛い経験などから「自分にはできない」と思ってしまう傾向が強い生徒が多いからです。私たちは、この思考を「一人ではできない」に変容していきます。

代替物を用いることで、一人で考えた時には見えなかった顛末を客観的に見ることができました。それにより動機が高まり「したくない」と思う自分の理由を見つめやすくなります。それをクラスで共有してみると、多くの共感を得て「できるならしたいけど、できないと思ってしまう」に変化。さらに教員やクラスメイトの支えがあることを知ると「一人ではできないけど、一緒にならできるかもしれない」「だから、学校に行こう」に変容していったのです。

課題発表会は、導入から生徒も教員も非常に

エネルギーを使います。しかし、ここが大事。その後続く熟考の日々をしっかりと支える土台ができるのですから。

毎年、課題発表会は、生徒達が支えながら自分と対峙し、熟考の経験ができる取り組み、そして、教員の知恵とテクニックも冴える取り組みでもあると捉え、共に歩んでいます。



発表: KMさん



発表: MIさん



発表: RKさん



発表: SKさん

■ 学科長 西村 麻衣



外の世界に目を向け、興味を掘り下げることで自分自身のことを知る。課題研究の取り組みはまさに、自分との対話を重ねることで、社会における自身のアイデンティティを見つめる時間です。

13期生は、自ら挑戦することを選び、1人ひとりが逃げることなく、集大成を発表することができました。まだ、足りなかった！と思った人も、達成感でいっぱいの人も。きっと、将来の自分を支える大切な経験となった事だと思います。

ここまで来た、生徒たち一人ひとりを、尊敬しています。

■ 3年生担任 山辺総子

入学時はカチコチに固かった思考と表情が、この2年半で見違えるようになった13期生。

たくさんの経験と、本気の大人に出会い、魂を揺さぶられ、ともに喜びをわかちあえる仲間になりましたね。次の進路に向けて、残りの半年間、一緒にがんばりましょう。

■ 3年生担任 西林 美紗生

2年間担任としてずっと近くで見てきました。4月、ゴモラコースを選んだ13期生。みんなの選んだ結果に、驚きや不安もありましたが何より心から嬉しかったです。初めて「本気」で悩み、取り組んだのではないのでしょうか。支え合い努力する姿をたくさん見せてくれました。この経験はこの先必ず役立つ時が来ます。「まだまだ成長してくれるのでは!?」と13期生との残り半年の表コミ生活がとても楽しみです。